

新バイオファミリーを迎えて 「縦コン2009」開催

今年度、応用バイオ科学科は、北は北海道から南は沖縄、外国はソウルまで、総勢138名もの新入生を迎え入れました。新バイオファミリーのスタートを祝して、上級生の2～4年生も加わった「縦コン2009」を、4月6日に第1食堂で開催しました。毎年4月に開催しているオープン参加型のイベントで、今年度は応用バイオ科学科の完成年度の年（1年生から4年生までそろった年）でもあり、学科全体で200名を超えるバイオファミリー（1～4年生と教職員）が一堂に集結し、先輩から後輩へエールの交換がありました。『新入生頑張れ!』『俺にまかせろ?!』『何とかなる!』と…。これに対し、岡部学科長は満足そうな無言の笑顔でした。



学科長 岡部勝教授の挨拶



国際学会で受付を行いました! 国際会議事務局奮闘記

慶應義塾大学日吉キャンパス内「協生館」にて4月に開催された第2回国際先端微粒子シンポジウムにおいて、4年生の芹澤宏之さん、金澤健太さん、齋藤奈々さん、富永貴之さんが受付アルバイトを行いました。英語はほとんど話せないといった皆さんですが、実際に海外の方から英語で話しかけられると、うまく話せないながらも必死に対応していました。周りのスタッフの方からは、「神奈川工科大の学生はよく頑張っている」というお褒めの言葉をいただきました。この苦労した貴重な体験は、学生の学習意欲の向上に大いに役立つことでしょう。



かずさDNA研究所にて



国際先端微粒子シンポジウムの受付を行いました

フレッシュマンズキャンプ

新入生を対象としたオリエンテーションの一大イベントとして、応用バイオ科学科は4月8日から千葉県白子温泉で一泊二日のフレッシュマンズキャンプを敢行しました。キャンプ一日目は全体会とクラス毎に分かれての懇談会、二日目はかずさアカデミアパーク（NITEバイオ本部、かずさDNA研究所、かずさパーク）とビール工場（キリン横浜ビアビレッジ）を見学し、多くの知識と刺激を頂きました。ハードなキャンプでしたが、文字通り「同じ釜の飯」を食べ、同期生や先輩TA、教員と交流・親睦を深めました。このキャンプでたまたま話した人がかけがえのない友人になったという話もあります。あなたにはどんなドラマが生まれましたか?



米国シアトルでの 海外バイオ研修I

2月半ばから1ヶ月間、米国シアトルのサウルシアトル・コミュニティカレッジで海外バイオ研修が行われました。滞在中はホームステイで生活し、3週間の語学研修と1週間のバイオ実験の研修を行います。もちろん全て英語で生活そして授業です。今回、応用バイオ科学科からは7名が参加し、非常に充実した研修を送ることができました。応用バイオ科学科では、今年もバイオ実験を担当していただいたマーク先生（写真中央で本学のキャップを被っている）を8月にお呼びし、海外バイオ研修ながらのワークショップを開催します。是非参加して、その雰囲気味わってください。きっと、シアトルに行きたくなくなりますよ。

海外バイオ研修に参加して

2年 久保 美侑

旅立つ飛行機の中、初めてのアメリカ、初めてのホームステイ……初めてづくしの研修に期待や不安といったいろいろな気持ちで胸がいっぱいでした。しかし、ホストファミリーの家族は面会したとたん名前を呼んで抱きしめてくれ、すぐに打ち解けることができました。私が英語を理解できなかったときは遠まわしに意味を説明してくれたり、絵やジェスチャーを用いて理解しやすいようにしてくれたりなど心配していた会話にはほとんど困ることはありませんでした。

学校の授業では英会話とバイオ実験を受けました。英会話の授業では、教師が一方的に話すのではなく、生徒に考える時間を与え、発言する機会があったり、疑問が出てきたらその疑問について皆で考えたりするなど、授業というよりは会話のコミュニケーションといった感じで最初から最後まで飽きることなく英語を使うことができました。バイオ実験では、培地を自分で作ったり、さまざまな機器を用いたり、動物の臓器を解剖したりするなど日本では体験できないような授業を受けることができました。動物の臓器の解剖から体のつくりを知ると共に命の大切さも知ることができました。

今回の研修に参加して、戸惑うことは山のようにありましたが、マイナスになることは1つもなくむしろプラスになることばかりでした。今回の貴重な経験を忘れないようこれからの人生に活かしていくつもりです。そしてまた近い将来ホストファミリーに会いに行けたらと思っています。

OLYMPIC HA



左から須永温夫さん、岩倉幸太郎さん、西田拓さん、市村准教授、長岡洋樹さん、マーク先生、久保美侑さん、又木勇樹さん